

東北 VALUE SIGHT 秋田



株式会社せん 代表取締役

水野 千夏 (みずの・ちなつ)

2011年 神奈川大学経済学部卒業、株式会社マリークワントコスマチックス入社
2012年 秋田へUターン、ノリットジャパン株式会社入社
2013年 起業のため退社、あきた舞妓事業発足
2014年 株式会社せん設立、代表取締役に就任
2015年 新事業「松下」発足
現在は、秋田美人の可能性をデザインし、秋田の価値を高める事業に挑戦中。

株式会社せん
秋田市大町四丁目4-42-402 TEL 018-827-3241
ホームページ <http://akitamaiko.com>

秋田での起業を誓いUターンした水野氏は、都会暮らしでよく耳にした「秋田美人」のブランド力の高さに着眼し、「秋田美人を産業にしよう」との思いを強く抱いた。

そこで10年ほど前に途絶えた「川反芸者」^{かわばた}を復活させて「秋田舞妓」の育成・派遣事業をスタートさせ、今年6月には活動拠点施設をオープンするなど、秋田に人の賑わいや活気を生み出すべく、日々舞妓の育成とPRに奮闘している。

秋田美人の産業化

起業という目標、秋田へUターン

今から5年前、東京で社会人になった私は、自分の将来の展望をふと考えた。自分とは縁もゆかりもない東京でこのまま人生を送っていくことが、自分の人生の中で良い選択になるのかどうかはわからなかったからだ。そして5年後、10年後に自分がどんな人生を送っているのかをイメージした時に、当時身近にいた医者友人に劣らないような仕事をしていなければいけないという漠然とした思いと、将来子育ては自分が生まれ育った秋田でしたい、という気持ちが生まれたのである。

医者に劣らない仕事とは、何があるだろうか。また、仮に秋田に帰ったとして、一生楽しく続けられる仕事はなんだろうかと考えた時、ふと頭に思い浮かんだのが、“起業”をして“社長”になるということだった。秋田で起業し社長になることができれば、子供が生まれても自分のやりたいことができ、仕事も一生続けられるだろうと考えたのだ。

しかし、いざ秋田での起業を夢見ても、当時の私には起業する会社のコンテンツになるようなアイデアもなければ、秋田がどんな経済状況になっているのかもわからない状態だった。そこで、まずは秋田には今どんな産業が必要とされているのかなど、秋田での起業の可能性を探そうと思い立ち、2012年の春、秋田へUターンすることとなった。

秋田でやるべきこと

- 5年ぶりの秋田での生活の中で、
- ・暮らしやすい
- ・伝統文化が盛ん

- ・人がいない
- ・活気がない

など、秋田の良いところから悪いところまで、さまざまなことを発見することができた。

良い点としては、秋田県は無形重要文化財の登録数が全国1位という誇るべき事実を知ったり、秋田の色々な地域に根ざしている伝統文化がいかにして今の時代にも残っているかという話を聞いたり実際に目にしたりしていくうちに、自分の生まれ故郷がどれだけ魅力溢れる地域であるかということを感じることができた。

一方で、秋田を離れていた時、新聞やテレビのニュースでは人口減少や少子高齢化社会の事例として挙げられるのはいつも秋田であったことから、こうした問題があることについては認識していたものの、実際に住み始めてその現状がいかに危機的なものかということも実感した。

その上で感じたのは、まだまだ多くの人に知られていない秋田の魅力を活用し、秋田に人の賑わいや活気を生み出すことはできないだろうか…ということであった。秋田の真の魅力を伝えることで、もっと多くの人に秋田に興味を持ってもらい、そして実際に来てもらう。そうすることで、秋田の課題として挙げられる社会問題を少しでも良い方向へ導くことができるのではないかと考えたのだ。

そして、私が秋田の魅力の中で一番興味関心が湧いたのが“秋田美人”であった。理由は、どのようにしてこの言葉が生まれたのかは分からなかったが、言葉としてしか存在していない秋田の魅力であるにも関わらず、全国的に認知度がかなり高いものであったからだ。

会える秋田美人、あきた舞妓

“秋田美人”という言葉について調べることで、とてもわくわくするような文化が秋田に存在していた事実を発見できた。それは“川反芸者”である。“川反芸者”は初めて聞く言葉であり、その言葉に出会った瞬間、私は、秋田にも芸者文化があったという驚きをたくさんの人に共感してもらいたいと考えた。そして、起業する会社のコンテンツとして“秋田美人の産業化”を、また、秋田美人を産業化するための一手として、昔の芸者文化を復活させることで秋田美人を具現化させる事業を考えついた。それが、“会える秋田美人、あきた舞妓”という事業だ。

事業の内容はお座敷文化を復活させるだけでなく、まだまだ知られていない秋田の魅力を発信させる伝道師としてあきた舞妓を育成し、いわば観光大使のような存在として秋田で活動していこうというものにした。そして今まさに、宴席やお座敷を盛り上げるだけではなく、秋田のPRや秋田の魅力を発信する活動を行っている。

秋田文化産業施設「松下」

事業を進めるうち、会える秋田美人事業にも課題が浮上した。それは、女性や若い方々から「料亭などの敷居が高く、あきた舞妓さんに会いたくても会えない」という声が多く寄せられるようになったことだった。

確かに、考えてみると私たちと交流できるお客さまはごく限られた方々であった。これでは会える秋田美人が実現できていないと考えた私は、あきた舞

妓の拠点をつくり、そこでいつでも誰でも気軽にあきた舞妓に会える仕組みを作ろうと考えた。これが実現できれば、県内外の観光客の方々にもあきた舞妓を楽しんでいただける、そうした思いから“割烹松下”の再利用を模索した。

千秋公園内にある“割烹松下”という元料亭は、この拠点構想に必要な立地や雰囲気などの条件をすべてそなえていた。大正5年に創業された割烹松下は、廃業されてすでに10年ほど経っており、ほとんど利用されることもなく、千秋公園の中に廃墟のごとく佇んでいた。しかし、約10年という空白の期間を経て、2016年6月、あきた舞妓の拠点として新たに息を吹き返したのだ。

私は、このように文化や伝統を掘り起こし、今の時代に合わせたサービスへとさらに変化させていくことが、地方都市・秋田に今必要な取り組みではないかと考えている。

まだまだ秋田美人の進化は始まったばかり。これからさらに秋田の魅力を発信できるよう、誇り高き秋田美人として秋田の伝統文化の再発見を行っていく。



2016年6月にリスタートした秋田文化産業施設「松下」 大広間